

「あすなろ」便り

No.102

2015.4.20

発行：あすなろ
TEL:046-254-2005



西野博之氏講演会

川崎市にある子ども夢パークの所長でありフリースペースたまりばの理事長でもある西野先生の講演会が、3月8日あすなろと座間市の共催で行われました。これは、座間市相互提案型協働事業の最後の講演会であり、半年前から企画、準備、検討を担当課の青少年相談室と協議してきました。最初は当日の参加がどの位になるのか心配しましたが、結果的には73名の皆様の参加を得ることができました。当日は3時間に及ぶ講演となりましたが、先生の熱意に溢れたお話に引き込まれて、途中で帰る方も殆どなく終了することが出来ました。西野先生は30年近く不登校やひきこもりの青少年達と向き合ってきました。コミュニケーションをとるのが苦手な生きづらさを抱えている青少年達、自傷行為を繰り返す若者達に会い「居場所」づくりの必要性を痛感して1991年多摩川のほとりの一室で「タマリバ」を立ち上げその後2000年「川崎子どもの権利条例」制定に携わり、日本初の公設民営の「子ども夢パーク」と「フリースペースえん」の運営に携わっておられます。自己肯定感の低い青少年達にとって「居場所」は「いのちの現場」と先生はおっしゃいます。また、フリースペースでは、昼食を作って食べることが人の関係の和を生み、笑顔になり「おいしい・うれしい・のしい」で仲間が繋がっていきます。こうして、心と体が満たされると安心が広がり子ども達は自然に学校へ社会へと動き始めます。「生きている、ただそれだけで祝福される」これが「たまりば」の理念です。まずは子ども達の話聞き共感受け止める事、時には嘘をつく事もあるが、その嘘の裏側に何かがあるのか周りの人は考えていくことです。私達が地域でできることは「ひとりじゃないよ」という気持ちを伝える事、そして「いつも、あなたを見ているよ」という気持ちで寄り添うきもちが大切であるという支援者としての立ち位置が、この講演で伝わりました。西野先生の一貫した青少年達への愛と情熱をひしひしと感じた講演でした。また、講演会後のアンケートでは、座間にも「たまりば」のような青少年達の居場所を作って欲しいという要望が多く寄せられました。

社会見学に行ってきました



3月8日市との協働事業の一つである講演会が行われました。その講演をしてくださった、西の先生が理事長をされている川崎「夢パーク・フリースペース」に親と子(5名)賛助会員、スタッフ合わせて13名で3月16日(月)に行ってきました。公設民営型、フリースペースたまりば「えん」に通える子供たちが麗ましい！学校の中に居場所を見いだせない子供たちや若者達、が学校の外で育つ・学ぶ、安心していられる場が公設民営としてあることは凄いです。国や県。市がもっと真剣に子供たちの未来を考えてくれることを願ってやみません。

卒業・進級祝

3月19日(木)今年度最後の食事づくりを卒業・進級祝いの会にすることになりました。お赤飯にから揚げ・草餅・お吸い物・菜花のお浸しなどのメニューです。スタッフは何日も前からヨモギを積んで草餅の準備です。あすなろの子供たちは色々です。中学卒業の子供は、すぐに新しい高校生活に入る子もいますが一年充電期間を得て高校に進学する子もいます。小学卒業の子供は、新しい中学校生活がうまくいきますようにと、ご両親と供にあすなろのメンバーも我が事のように心配したり、喜んだりです。2年間学習支援で来て下さっていた澤先生、行政で私達の窓口となり協力・支援して下さったNさんも駆けつけて、一緒に門出を喜んで下さいました。あすなろが開設当時、その季節になると毎年のように作っていた草餅、久しぶりでスタッフも子供と供に懐かしく、当時のことを思い出しながら皆でワイワイガヤガヤ、茹でたヨモギを切ったりすったり、ついたり、混ぜたり丸めたりして美味しく出来上がりました。子供たちは唐揚げを、大人たちは「入るところが別よね」などと言いながら草餅を頂き、話も弾み大満足の食事会でした。

